

看護診断	
# 3 環境変化に伴う睡眠の障害	
期待される効果	
1. せん妄を起こさない。 2. 環境に適応し、落ち着いて生活することができる。 3. 生活リズムを整え、夜間良眠できる。	
看護計画	
O-P (観察計画)	1. 意識障害の有無 2. 夜間の睡眠状況 3. 眠剤服用の有無 4. 日中の覚醒状況 5. 入院や疾病に関連する不安の有無 6. 表情・言動 7. 面会状況 8. 夜間の排泄 9. 同室者の有無
C-P (ケア計画)	1. 日中の覚醒を促す 2. リハビリ等での疲労が強い場合には、15分ほどの休息を促す 3. 患者の不安の訴えに傾聴し、話しやすい環境づくりを行う 4. 夜間の入眠が困難な場合には、イブニングケア（ホットパックや足浴など）を行う 5. 必要時、眠剤を服用する
E-P (教育計画)	1. 熟眠感を感じない場合には伝えるよう説明する。 2. 日中の活動の必要性について説明する。